

## 「骨髄増殖性腫瘍における遺伝子異常の検討」に関するお知らせ

がんは、本来正常な細胞の遺伝子が傷つくことで、発生することがわかっています。このことを骨髄増殖性腫瘍細胞において詳しく調べることにより、その治療の反応性や予後などをより詳しく知る情報が得られたり、新しい診断法、治療法を見出す手がかりが得られたりする可能性があります。このような研究に診断目的で採取した血液、骨髄液などの残余の一部を利用することについてご協力をお願いいたします。

研究の内容：骨髄増殖性腫瘍（造血幹細胞レベルで腫瘍化することにより、白血球、赤血球、血小板の3系統ともが増え、骨髄中、末梢血中で細胞が非常に増加する病気）のよりよい診断法、治療法を確立するためには、病気のことをもっと調べる必要があります。骨髄増殖性腫瘍の患者様の血液細胞・骨髄細胞の遺伝子（遺伝情報のデータ）の塩基配列（遺伝情報を伝えるための媒体とも言える、DNAを構成する4種類の塩基の並び方）の変化、つまり遺伝子変異を調べることで、骨髄増殖性腫瘍の各病型に固有の遺伝子変異やを調べ、新しい診断法、治療法への手がかりを得ることを目的としています。

研究の方法：あなたから診療目的で採取した血液や骨髄液中の細胞から抽出したDNAの残余分を本研究に使用させていただきます。サンガーシーケンス法やホールゲノムシーケンス法というヒトDNAの塩基配列を調べる方法を使ってがん細胞に特徴的な遺伝子変異の有無を調べます。試料として、診断目的の残余分を使用させていただきますので、新たな費用負担や採血検査などの身体的負担は一切ありません。本研究の成果は学会や学術論文として公表され、基本的には個人名との照合はいたしません。ただし、患者さんの希望があれば、結果公表後にお伝えすることは可能です。

この研究の内容および方法は三重大学医学部倫理委員会での厳正な審査の結果承認が得られ、実施について当学医学系研究科長の承認を得ています。ご自分のデータをこの研究に使用してほしくないとお考えの患者さんは、下記の連絡先までご連絡をお願い申し上げます。データの使用にあたっては、患者さんおよびご家族に診療上の不利益などが一切生じないよう、以下のことを厳守いたします。

- 医学研究以外には使用しない
- 患者さんおよびご家族の氏名は公表しない。個人情報厳密に守秘する。
- 研究結果は学会、研究会、学術論文以外では発表しない
- いつでも同意は撤回可能であり、それによって患者さんに不利益を及ぼすことはない

#### 研究期間

研究期間：平成26年7月から平成31年6月末日まで

試料収集期間：平成20年7月から平成31年6月末日まで

#### 連絡先、この研究の研究代表者

三重大学大学院医学系研究科血液・腫瘍内科学 助教 杉本 由香

住所 〒514-8507 三重県津市江戸橋 2-174

電話 059-231-5016 FAX 059-231-5200